

## 平成30年度第1回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録

日 時 平成30年4月25日（水）14時00分～16時00分

場 所 事務局棟5階大会議室

出席者 栗村、塩田、野田、細井、吉林

石井、丹沢、木村、東郷、堀川、寺村、本橋、鈴木の各委員

欠席者 泉、大石、鳥居、晝馬の各委員

陪席者 伊東副学長、鈴木、村松の各監事、瓜谷、青木、白井の各学長補佐

議事に先立ち、議長から、本年度から新たに就任した委員及び前年度から引き続き再任となった委員について、紹介があった。

### I 前回議事録の承認について

平成29年度第11回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録（案）を原案どおり承認した。

### II 審議事項

#### 1 学長選考会議委員の選出について

議長及び堀川委員から、学長選考会議委員について、資料1により説明があり、審議の結果、栗村、塩田、鳥居及び細井の各委員を選出した。

#### 2 大学間連携の対応について

議長から、資料2及び席上配布資料により、文部科学省が検討している大学等連携推進法人（仮称）及び一法人複数大学に関する大学間連携への対応について説明があった。

議長から、来年の通常国会で国立大学法人法の改正が行われる見通しであり、現時点では改正案が不透明だが、本学としてメリット・デメリットを整理して今後、経営協議会で議論したい旨、発言があった。

（学外委員から出された主な意見）

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：18歳人口及び予算の減少が予想されている中でどのように大学を運営していくのか他大学と調整しながら進めなければならないが、学内外でどのような議論をしているのか。

△：他大学の役員と意見交換している。学内では部局長と意見交換していて、4月の教育研究評議会においても話題としたところである。

- ⊕：一法人複数大学は国立高等専門学校機構のイメージがあるがメリットデメリットを明確にする必要がある。
- △：一法人複数大学によって経費面で効率的にできるので研究力の強化が図れることや、キャンパス毎に迅速な意思決定できるメリットが考えられる。一方、法人と大学の意思決定が複雑になってしまうデメリットが考えられる。
- ⊕：静岡大学は運営費交付金の類型化において地域貢献型を選択しているので地方公共団体や地域産業界の声を聞く必要がある。
- ⊕：国立大学は法人の長と学長は同一人物であるが、公立大学は理事長と学長は別人にすることが可能であり、また、国立大学と公立大学では予算の仕組みが異なるので、国公連携については相当な議論が必要である。
- ⊕：国立医科大学が総合大学と統合した際にどのようなメリットがあったのか検証する必要がある。
- ⊕：国立大学は若者に魅力ある大学になるように各大学の個性を活かす議論をする必要がある。

### Ⅲ 報告事項

#### 1 平成29年度の静岡大学の主な取り組みについて

議長から、平成29年度の静岡大学の主な取り組みについて、資料3により報告があった。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：日本人学生が留学しやすいように留学先における単位認定について検討する必要がある。

#### 2 平成29年度に経営協議会学外委員から出された意見等への対応について

議長から、平成29年度に経営協議会学外委員から出された意見等への対応について、資料4により報告があった。

#### 3 平成29年度監事業務監査実施結果について

鈴木監事から、平成29年度監事業務監査実施結果について、資料5により報告があった。

#### 4 平成30年度入学試験実施状況について

丹沢委員から、平成30年度入学試験実施状況について、資料6により報告があった。

#### 5 平成29年度卒業・修了者の進路状況について

寺村委員から、平成29年度卒業・修了者の進路状況について、資料7により報告があった。

### IV その他

#### 1 平成30年度国立大学法人静岡大学経営協議会の開催日程について

議長から、平成30年度国立大学法人静岡大学経営協議会の開催日程について、資料8により説明があり、出席依頼があった。

#### 2 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料により紹介があった。

以上